

強度行動障害の児童生徒等に関する実態把握 アンケート調査結果

調査対象	全国特別支援学校知的障害教育校長会に加盟している特別支援学校（682校）
回答学校数	507校
回答期間	令和6年11月14日～令和6年12月13日
実施方法	令和6年度文部科学省委託事業「発達障害のある児童生徒等に対する支援に関する家庭・教育・福祉の連携に関する調査研究事業」において、受託団体である株式会社Ridiloverから、全国特別支援学校知的障害教育校長会に加盟している特別支援学校に対して、WEBアンケートへの回答を依頼。特別支援教育コーディネーターや対象児童生徒の状況がわかる教員の方が記入し、校長による了の下で回答いただくよう依頼した。
主な質問項目	- 強度行動障害の状態にあると考えられる児童生徒の現状と支援の状況 - 学校における強度行動障害の理解の状況 - 教員の強度行動障害に関する研修の状況 等

知的障害特別支援学校における強度行動障害の状態にあると考えられる児童生徒の現状

【問】「強度行動障害」とは、自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行為が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態です。令和6年10月1日時点で、上記のような行動上の問題によって、一日のうちの一部の時間もしくはすべての時間などのように、継続的に別室での個別対応が必要な児童生徒の在籍数について、教えてください。

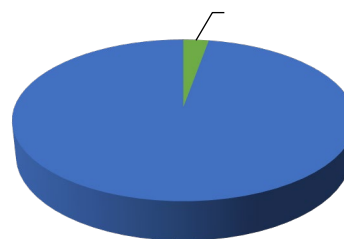
	在籍者数	該当人数	在籍者に占める割合
小学部1～3年	14,276人	272人	1.9%
小学部4～6年	13,260人	433人	3.3%
中学部	17,610人	638人	3.6%
高等部	36,090人	936人	2.6%
計	81,236人	2,279人	2.8%

回答学校のうち、該当する児童生徒が1人以上在籍していると回答した学校

回答学校数	該当学校数	回答学校数に占める割合
507校	343校	67.7%

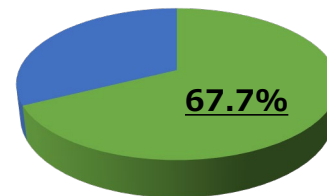
該当する児童生徒の割合

2.8%



該当児童生徒が1人以上在籍していると回答した学校の割合

67.7%



知的障害特別支援学校における強度行動障害の状態にあると考えられる児童生徒の状態

* 以下の質問は、強度行動障害の状態にあると思われる児童生徒が1名以上在籍していると回答した学校に対して、その状態が最も重いと考えられる1名について、その状態を聞いたもの。（n=343校・各質問「単一回答」）

【1】コミュニケーション（双方向のやり取り）



- ☐ 独自の方法（本人独特の身振りや仕草）でコミュニケーションできる又はコミュニケーションできない
- ☐ 特定の者であればコミュニケーションできる又は会話以外の方法（手話や筆談、メール、意思伝達装置等）でコミュニケーションできる
- ☐ 日常生活におけるコミュニケーションに支障がない

【3】大声・奇声を出す



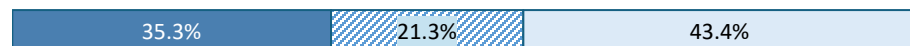
- ☐ (1) ほぼ毎日ある
- ☐ (2) 週に1回以上ある
- ☐ (3) ときどきある(週に1回未満)又はほとんどない

【5】多動・行動停止（思うとおりにならないと多動になったり、こだわって動けなくなってしまう等）



- ☐ (1) ほぼ毎日ある
- ☐ (2) 週に1回以上ある
- ☐ (3) ときどきある(週に1回未満)又はほとんどない

【7】自らを傷つける行為（自分の体を叩いたり傷つける、頭髪を抜く等）



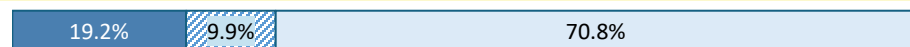
- ☐ (1) ほぼ毎日ある
- ☐ (2) 週に1回以上ある
- ☐ (3) ときどきある(週に1回未満)又はほとんどない

【9】不適切な行為（急に他人に接近する、触る、断りなく物を持ってきてしまう等）



- ☐ (1) ほぼ毎日ある
- ☐ (2) 週に1回以上ある
- ☐ (3) ときどきある(週に1回未満)又はほとんどない

【11】過食・反すう（過食や過飲、拒食、反すう等、食に関する行動上の問題）



- ☐ (1) ほぼ毎日ある
- ☐ (2) 週に1回以上ある
- ☐ (3) ときどきある(週に1回未満)又はほとんどない

【2】説明の理解



- ☐ 理解できているか判断できない
- ☐ 説明を全ては理解できず、説明に応じた行動ができない
- ☐ 説明を全て理解し、説明に反応(返事等)できる

【4】異食行動（食べられないものを口に入れたりする等）



- ☐ (1) ほぼ毎日ある
- ☐ (2) 週に1回以上ある
- ☐ (3) ときどきある(週に1回未満)又はほとんどない

【6】不安定な行動（パニック状態になる等）



- ☐ (1) ほぼ毎日ある
- ☐ (2) 週に1回以上ある
- ☐ (3) ときどきある(週に1回未満)又はほとんどない

【8】他人を傷つける行為（他人を叩く、蹴る、髪の毛を引っ張る、壁やガラスを壊す等により、他人を傷つける危険性があるもの）



- ☐ (1) ほぼ毎日ある
- ☐ (2) 週に1回以上ある
- ☐ (3) ときどきある(週に1回未満)又はほとんどない

【10】突発的な行動（関心が強い物や人を見つけたら突然そちらへ走って行ってしまふ等）



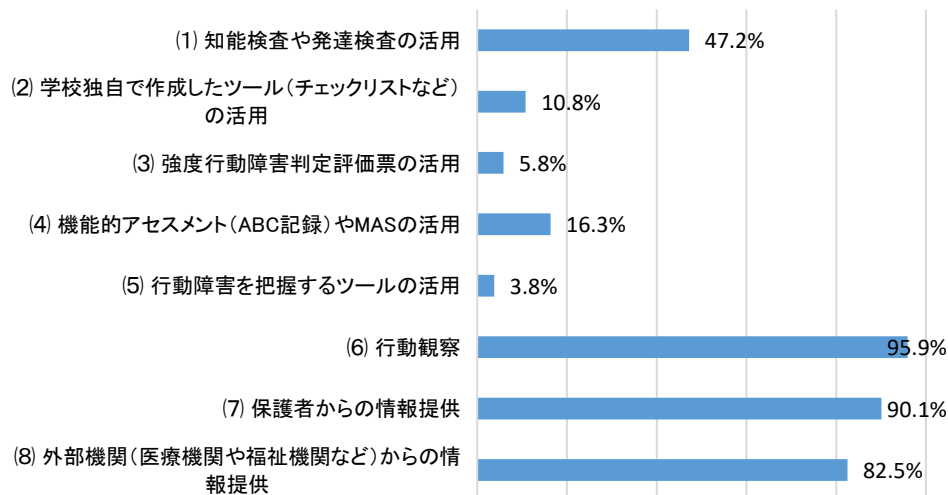
- ☐ (1) ほぼ毎日ある
- ☐ (2) 週に1回以上ある
- ☐ (3) ときどきある(週に1回未満)又はほとんどない

* 【1】～【11】の質問は、障害者総合支援法における「障害支援区分」の認定調査項目の行動関連項目を踏まえた内容としている。

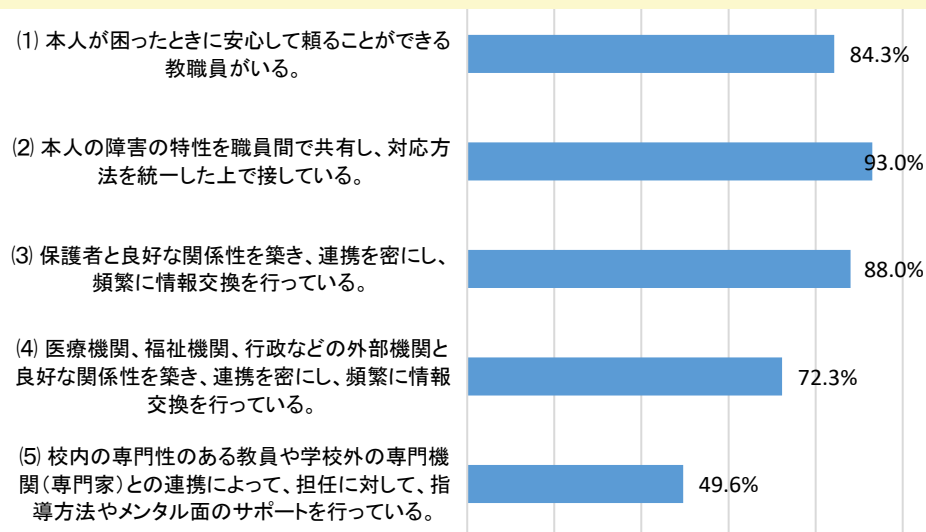
知的障害特別支援学校における強度行動障害の状態にあると考えられる児童生徒への支援の状況－①

* 以下の質問は、強度行動障害の状態にあると思われる児童生徒が1名以上在籍していると回答した学校に対して、その状態が最も重いと考えられる1名について、学校における支援の状況について聞いたもの。（n=343校。「単一回答」と明示した質問以外は、当該児童生徒について該当するものを全て選択）

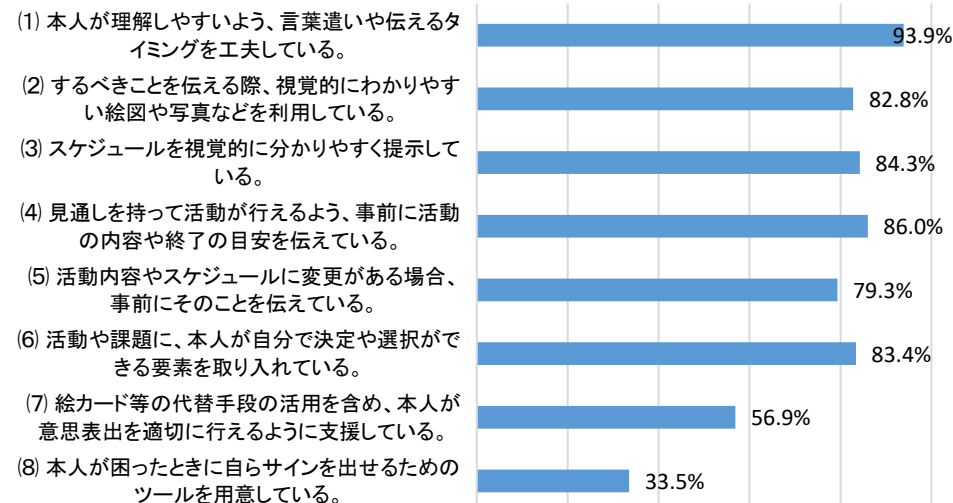
症状や程度を把握するために行っている検査や情報入手の方法



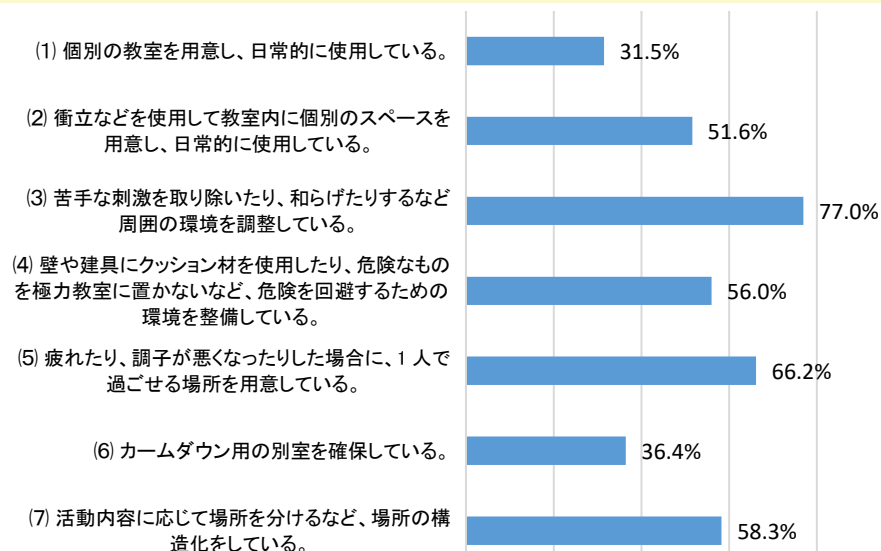
人的体制の充実による支援



本人の意思表示や指示理解に関する支援



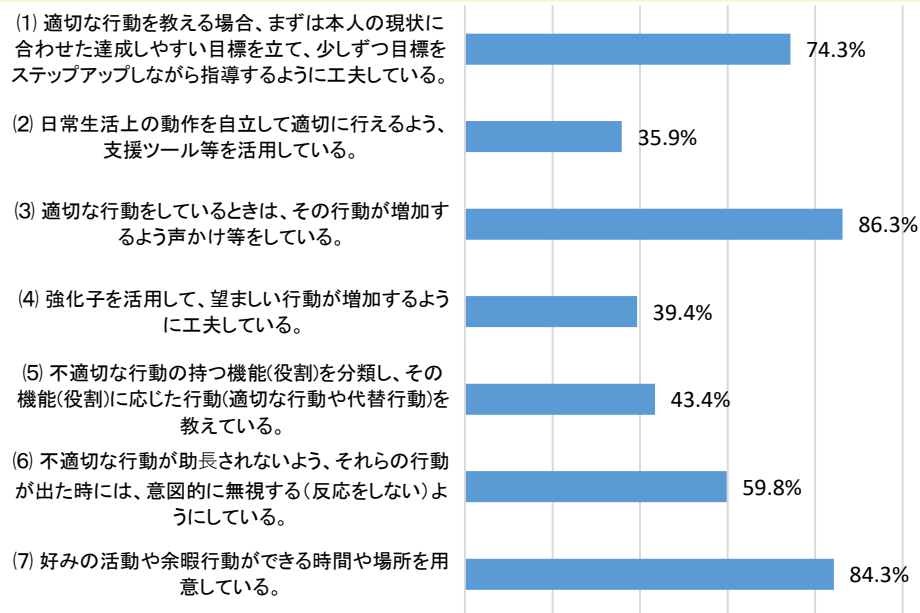
教室環境の整備による支援



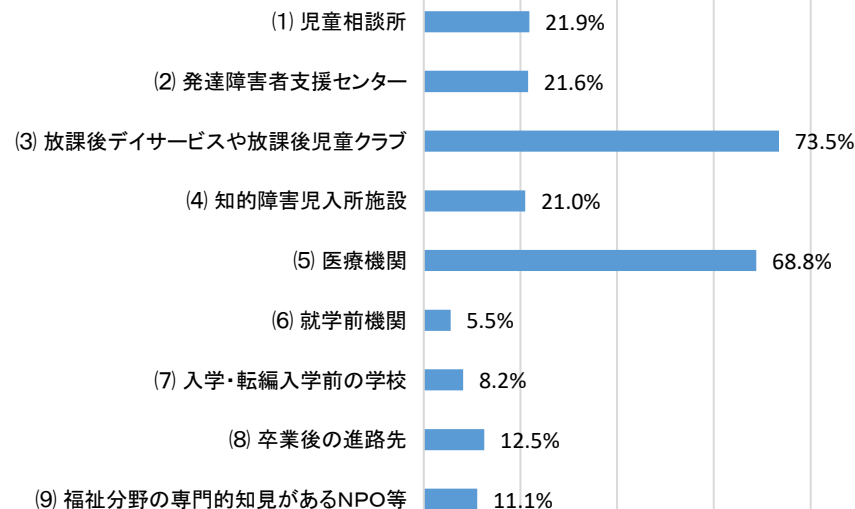
知的障害特別支援学校における強度行動障害の状態にあると考えられる児童生徒への支援の状況－②

* 以下の質問は、強度行動障害の状態にあると思われる児童生徒が1名以上在籍していると回答した学校に対して、その状態が最も重いと考えられる1名について、学校における支援の状況について聞いたもの。（n=343校。「単一回答」と明示した質問以外は、当該児童生徒について該当するものを全て選択）

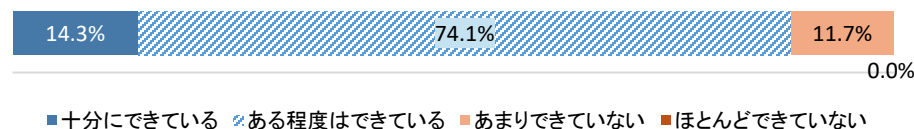
行動改善のための支援



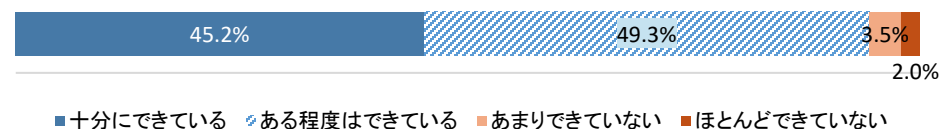
連携している外部機関



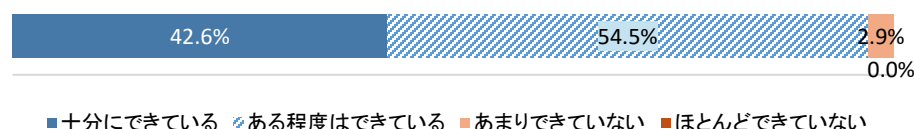
組織的な支援体制の整備状況（単一回答）



保護者との連携状況（単一回答）



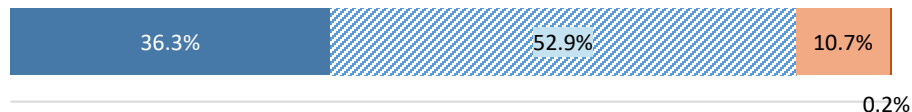
学年や学部等の教員間での情報共有の状況（単一回答）



知的障害特別支援学校における強度行動障害の理解の状況

(n=507校)

「強度行動障害」という言葉の認知度



- (1) ほぼ全ての教員が「強度行動障害」という言葉を知っている。
- ▨(2) どちらかといえば、「強度行動障害」という言葉を知っている教員の方が多い。
- (3) どちらかといえば、「強度行動障害」という言葉を知らない教員の方が多い。
- (4) 「強度行動障害」という言葉を知らない教員がほとんどである。

強度行動障害がどのような状態を指すかの理解度



- (1) ほぼ全ての教員が理解している。
- ▨(2) どちらかといえば、理解している教員の方が多い。
- (3) どちらかといえば、理解していない教員の方が多い。
- (4) 理解していない教員がほとんどである。

強度行動障害が生じる要因に関して、障害の特性と環境との相互作用から強度行動障害が生じることについて、どの程度の教員が理解しているか



- (1) ほぼ全ての教員が理解している。
- ▨(2) どちらかといえば、理解している教員の方が多い。
- (3) どちらかといえば、理解していない教員の方が多い。
- (4) 理解していない教員がほとんどである。

問題とされる個々の行動に、要求、注目、拒否などの意味があることについて、どの程度の教員が理解しているか

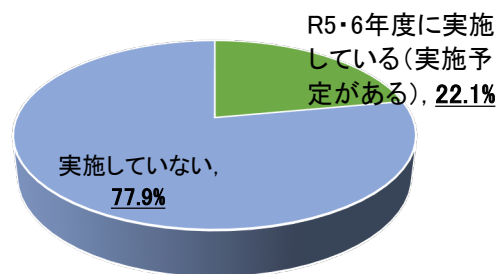


- (1) ほぼ全ての教員が理解している。
- ▨(2) どちらかといえば、理解している教員の方が多い。
- (3) どちらかといえば、理解していない教員の方が多い。
- (4) 理解していない教員がほとんどである。

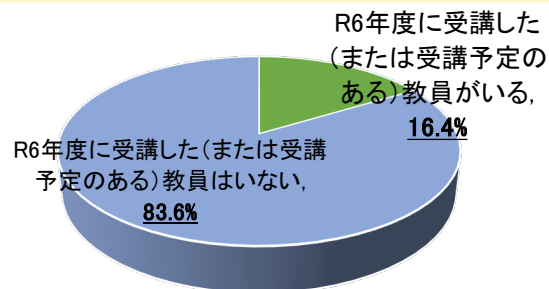
知的障害特別支援学校における強度行動障害に関する研修の状況

(n=507校)

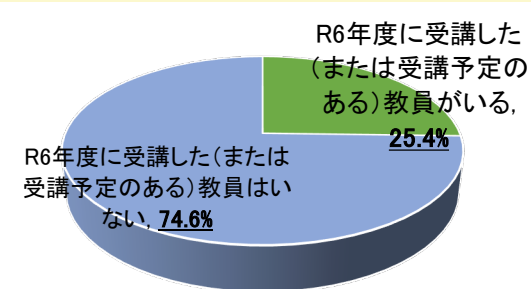
強度行動障害に関する校内研修の実施状況



都道府県が実施する強度行動障害支援者養成研修の受講状況

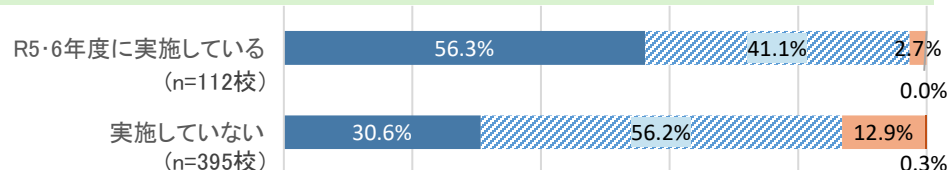


学校外の機関が開催する強度行動障害に関する研修の受講状況



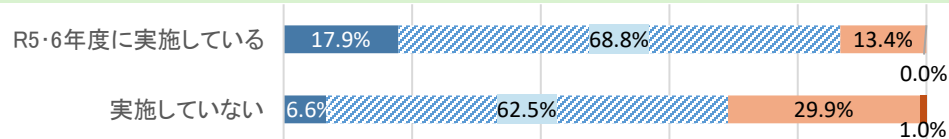
強度行動障害に関する校内研修の実施状況 と 理解度等

「強度行動障害」という言葉の認知度

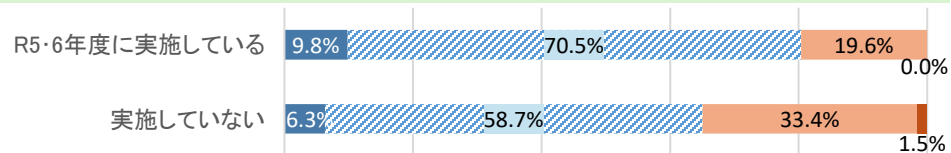


- (1) ほぼ全ての教員が「強度行動障害」という言葉を知っている。
- ▨ (2) どちらかといえば、「強度行動障害」という言葉を知っている教員の方が多い。
- (3) どちらかといえば、「強度行動障害」という言葉を知らない教員の方が多い。
- (4) 「強度行動障害」という言葉を知らない教員がほとんどである。

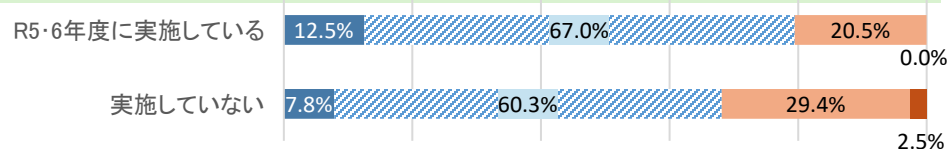
強度行動障害がどのような状態を指すかの理解度



強度行動障害が生じる要因に関して、障害の特性と環境との相互作用から強度行動障害が生じることについて、どの程度の教員が理解しているか



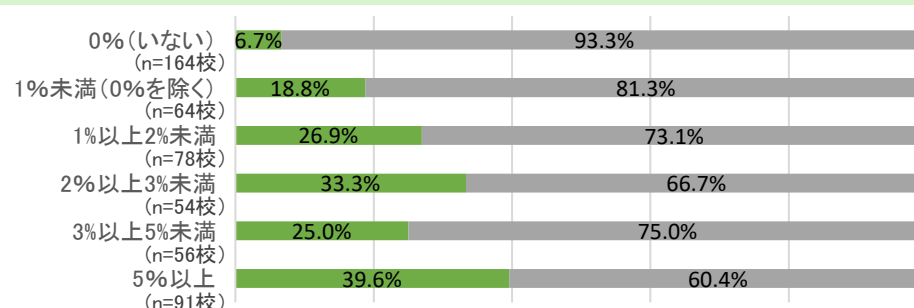
問題とされる個々の行動に、要求、注目、拒否などの意味があることについて、どの程度の教員が理解しているか



- (1) ほぼ全ての教員が理解している。
- ▨ (2) どちらかといえば、理解している教員の方が多い。
- (3) どちらかといえば、理解していない教員の方が多い。
- (4) 理解していない教員がほとんどである。

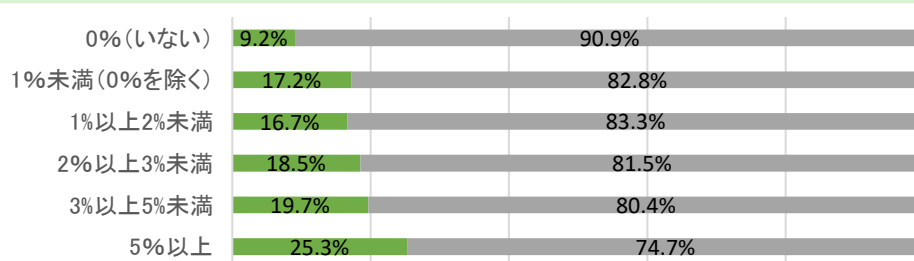
強度行動障害の状態にあると考えられる児童生徒が在籍者に占める割合 と 研修の実施状況等

校内研修の実施状況



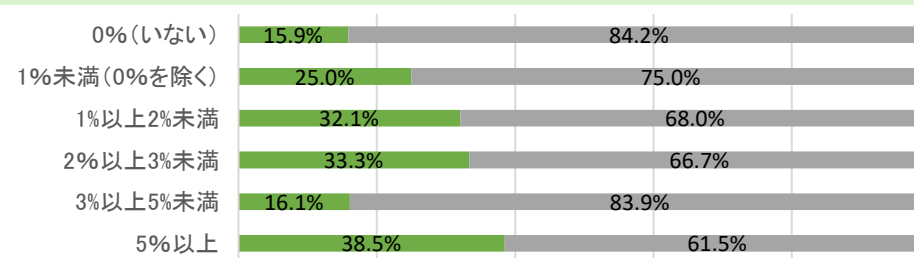
■ R5・6年度に実施している (実施予定がある) ■ 実施していない

都道府県が実施する強度行動障害支援者養成研修の受講状況



- (1) R6年度に受講した (または受講予定のある) 教員がいる。
- (2) R6年度に受講した (または受講予定のある) 教員はいない。

学校外の機関が開催する強度行動障害に関する研修の受講状況



- (1) R6年度に受講した (または受講予定のある) 教員がいる。
- (2) R6年度に受講した (または受講予定のある) 教員はいない。